



世田谷区誌研究会 会 報

令和 8 年6月号

NO63

編集人 野岸敏雄
天海敏彦

連絡先: kushiken0817@yahoo.co.jp

ホームページ: <https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/>

紫陽花の花が雨に濡れ、いっそう鮮やかな色を見せる季節となりました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。6月は一年の折り返し点、日本には1300年以上前から続く、「お正月じゃない、もう一つの大晦日（おおみそか）」があるのをご存知でしょうか。それが、毎年6月30日に行われる「夏越しの大祓（なごしのおおはらえ）」です。この神事は派手なお祭りとは違い、私たちが知らず知らずのうちに溜め込んでしまった「半年の疲れ」や「心のモヤモヤ（＝穢れ）」を、そっと水に流してリセットするための、とても静かで大切な節目だからです。

この時期、神社の境内に現れるのが、緑色の大きな「茅の輪（ちのわ）」。これを「8の字」を描くようにくるくるとくぐるだけで、これから迎える本格的な夏の暑さや、病気から身を守るパワーをいただけると言われています。特別な準備はいりません。いつものように神社にいかれ大きな茅の輪があれば説明書にそって行動すれば良いのです。大神社に行かなくても、私たちが暮らす街をずっと見守ってくれている地元の神社で受けるのが、一番の厄除けになります。そこで世田谷区の神社マップを同封いたします。原紙を拡大しましたので是非お近くに茅の輪がありましたら半年の穢れを落とし夏の猛暑などに耐えるパワーをいただください。

茅の輪をくぐり社殿に向かうと人の形に切り抜かれた小さな白い和紙が置かれていたらそれは「人形（ひとがた）」と呼びます。

人形は触ったことがない」という方はぜひ体験していただきたいのです。これは、自分自身の「身代わり」になってくれる、1300年前からある厄落としアイテムです。

やり方は驚くほどシンプルで、三ステップです。

1. **名前と年齢を書く：** 人形に自分の名前と数え年（または満年齢）を書きます。
2. **体を撫でる：** その紙で、自分の頭や肩、お腹など、調子の悪いところや気になるところを優しく撫でます（自分の「穢れ」や「疲れ」を紙に移すイメージです）。
3. **息を吹きかける：** 最後に人形に「フッ、フッ、フッ」と3回息を吹きかけます（これで自分の身代わりが完成します）。

こうして自分の分身となった人形を神社に納めると、神職の方がお祓いをして、私たちの代わりに罪や穢れをすべて消し去ってくれるのです。

「自分の手で触れて、息を吹きかける」というこの所作は、ただお参りするのとは一味違います。神社によっては、人形を家に持ち帰って、来られない家族の体を撫でて名前を書き、後日郵送や持参で納めることも可能です。

初穂料（お気持ち）の目安： 人形を納める際のお賽銭（初穂料）は、数百円～（1枚100円など）と、神社によって気軽に体験できるようになっていることが多いです。

5月の「声を出して学ぶ論語」については「復習」ノートをご覧戴きたい。

山口謠司先生が現役の大学教授ということで講義の中でいまどきの教育事情が紹介される。大学生のAIの活用・習字用AIロボットなどは想定できたが難関大学の受験科目が

「論語国語」は初耳であった。帰宅して調べてびっくり。われわれの時代とは大変な変化である。

6月より「声を出す」機会が少ないというご意見もあるので、山口謠司先生の90分論語講座とは別に希望者に山口先生の動画を中心に素読30分の時間帯設けます。

山口謠司先生の多方面の話題に興味のある方、指されることもテストなどありませんので席に余裕がありますので一度参加して下さい